

ひょうごかぞくねっと

兵庫県知的障害者施設家族会連合会

第44号

障がい者福祉について一から学びなおす

ひょうごかぞくねっと副会長
西中播磨かぞくねっと会長 平山 昭利



私の手元には、障がい者関連図書が6冊ほどあります。手に取ってパラパラとページをめくってみますと、あまりにも知らなすぎる事柄がいっぱい出てきました。

人生七十有余年にして、人の障がいについて全く無知であったことに愕然としました。いや、当事者ではないと無関心さが無知を容認していたのではないかと反省したのです。いやしくも、障がい者に関わるものとして、本当に恥ずべきことで、この十数年、無為に過ごした時間が悔やまれます。今、改めて初心に還り、襟を正して一から学び直そうと決意した次第です。

私が障がい者と関わるようになったのは、遡ること14年前頃です。それまで妻の叔父が知的障がい者で施設に入っていることは知ってはいたのですが、私には関係ないと無関心でいました。

保護者は妻の母親、いわゆる義母が、在宅時から長年養育していたのです。その義母が高齢で要介護の身になったのを契機に同居し、施設や家族会からの種々の案内状に誘われて、参加したのです。幸い定年退職して在宅の身であったこと、車で何処へでも出かけられる等々、身軽に動けたので参加するうちに、家族会の役員に推されたのです。

何も分からないまま、2007年家族会会長に推されたのはいいのですが、上部団体があるなんて、一切知りませんでした。

数年が経ち、施設家族会会長会に出席してありましたら、ひょうごかぞくねっとの理事、ブロックか

ぞくねっと会長と大役を引き受けてしまいました。

その間、様々な研修会、講演会、全施連全国大会等々に参加し、障がい者の事を学んできたつもりでしたが、正直に、何も理解できていなかったことを痛感しております。今回、この機関紙の原稿を担当するにあたり、今日まで障がい者施策の変遷、その歴史や現状を、一から学んでいこうと初めて書物を手に取っています。今、学ぼうとする書物はおそらく「九牛の一毛」程度のことしか知り得ることはできないと思っていますが、これを手初めに、あらゆる機会を通して、障がい者に寄り添う「人としての生き方」を体得してまいります。

この世に生を受けた人間、誰しも必ず深い「意味」があり必ず偉大な「使命」を背負っていると伺っております。健常者においても「十人十色」障がい者も「千差万別」で生を受けております。高齢化社会も深刻です。分け隔てなく思いやりと慈愛に満ちた、心から感謝できる美しい社会を築いていこうではありませんか。

参考までに以下の書物を紹介します。

- ① 「はじめての障害者問題」(堀利和著・現代書館刊)
- ② 「障がいのある子の家族が知っておきたい『親なきあと』」(渡部伸 行政書士著・主婦の友社刊)
- ③ 「高齢者、障害者の住まい Q&A」
(日本弁護士連合会著・あけび書房刊)
- ④ 「障害者総合支援法がよ〜くわかる本」
(福祉行政法令研究会著・秀和システム刊)
- ⑤ 「これならわかる障害者総合支援法第②版」
(二本柳覚・鈴木裕介・遠山真世著・(株)翔詠社刊)
- ⑥ 「視覚障害者とノーマライゼーション」
(鈴木正行著・(株)学文社刊)

【事務局】〒650-0016 神戸市中央区橋通3-4-1 神戸市立総合福祉センター2F 事務局(月～金 9:00～17:00)

電話 078(371)3930 FAX078(371)3931 Email: h-kazoku-net@alpha.ocn.ne.jp

発行人/兵庫県知的障害者施設家族会連合会(ひょうごかぞくねっと) 編集人/広報委員会

URL: <http://h-kazoku.ivory.ne.jp/> 2019年3月31日発行 第44号 表紙題字/沼野 聡美 氏

平成30年度 各地区かぞくねっと活動報告

(阪神) 会長 寺澤 節子

〈主な活動〉

全国大会の参加

評議員会

7/20 11/7

①7/20 各施設の近況報告と全国大会に向けて参加呼びかけ

②11/7 全国大会の報告と反省会

平成30年度は全国大会一色につつまれ、各地区役割分担で阪神かぞくねっとは、全国大会の冊子を作ることとなり、前回の秋田大会・兵庫大会の資料を参考に致しました。

最初はどこからどう手を付けて良いやら、戸惑う事ばかり多々あり、焦りもありましたが、実行委員会の方々のアドバイスをいただきながら、お陰様で早期に無事に完成することが出来、ほっと胸を撫で下ろすことが出来ました。ご協力頂いた方々に深く感謝申し上げます。

(こうべ) 会長 木村 三規子

〈主な活動〉

6/15 会長会(総会)

理事会・実行委員会・その他全国大会活動

計26回

ジョイフルコンサート・ジョイフルアート実行委員会

1.17 震災を忘れない市民追悼委員会

神戸市自閉症協会総会

全国大会実行委員会は12回開催された以外に、ホテル・旅行社・印刷会社との打ち合わせ、また実行委員会事前打ち合わせなど計14回、兵庫県・神戸市・市社協・神戸新聞事業団への助成、協力依頼に6回、タヒチアンダンス打ち合わせに3回、明石市長講演依頼なども行いました。こうべかぞくねっと理事はじめ会員の方にはずいぶん助けられました。

又、当日の神戸市知的障害者施設連盟(市知連)加入の施設長、施設職員の方々の応援は大変心強かったです。

(東・北播磨・淡路) 会長 吉岡 京子

〈主な活動〉

5/23 会長会 15名

(平成29年度事業報告、30年度事業計画)

6/28 施設見学 12名 明石市あいすくりーむ

10/2 実行委員会 8名

理事会 3回

今年度全国大会が兵庫県であり、地区かぞくねっとの研修会はありませんでした。昨年10月から全国大会の実行委員会が立ち上がり、実行委員長(木村副会長)の元、各地区かぞくねっとも担当を決めて進めて来ました。

私たちの担当は交流会全般、アトラクション、座席の割り振りでした。どの様な形が最適かを話し合っていて、意見が多かった都道府県混ぜて、交流の意味でも各2名での割り振り、300人近い人数でかなり大変な仕事です。参加者名簿が出てからの作業となったため、最後になりました。アトラクションのタヒチアンダンスも皆さんの知恵を借り行い盛り上がったことを嬉しく思います。前日の準備も理事全員が参加することができました。

実行委員には、理事に加え、あかりの家久保田さんは写真係で、希望の郷高田さんは座席の割り振りの土台と交流会の司会と力を借りて終えることができました。交流会は大会の楽しみのひとつと考えていたので、良いものになったと感じております。当日も与えられた役目をこなしてくれました。

実行委員会の解散式もあり無事に全国大会 in ひょうごが終わったことがなりよりです。皆さまご協力ありがとうございました。

第15回全施連全国大会 in 宮城

日時：2019年10月7日(月)13:00～

8日(火)12:30

場所：ホテルメルパルク仙台

宮城県仙台市宮城野区榴岡5-6-51

TEL:022-792-8111

詳細は、全施連ホームページ等でご確認願います。

(西中播磨) 会長 平山 昭利

〈主な活動〉

※ 理事会開催

5/16 (5名) 5/23 (5名) 7/25 (5名)

9/12 (6名) 2/8 (6名) 2/20 (6名)

※ 会長会開催

5/23 (14名) 7/25 (15名) 9/26 (15名)

2/20 (20名)

今年度は、全施連第14回全国大会が神戸市で開催されたため、昨年度からその準備のための実行委員会が十数回もたれ、試行錯誤の末、役割分担など準備をしてきました。西中播磨かぞくねっとも全面的に、全国大会成功のための協力体制を主眼に、心を合わせて当日を迎え、成功裡に終えることができました。地元開催とあって、西中播磨かぞくねっとからも、70 有余名の施設関係者・保護者の参加があり、一翼を担うことができました。

西中播磨かぞくねっととしては、全国大会に全力を傾注したため、他の行事・研修会等は開催しておりません。来年度についてはひょうごかぞくねっと本部・西中播磨かぞくねっと家族会会長等と相談、検討を加えた上、活発な活動への対策を講じたいと考えております。

3月22日意見交換会開催

入所・通所合せて70名以上の方が参加、①本人支援について②家族会活動について③ひょうごかぞくねっとについて意見交換しました。

(但馬・丹波) 会長 三浦 雅春

〈主な活動〉

理事・会長会 4/14 7/21 10/6 1/19 3/16

FM丹波インタビュー 6/15 (三浦・佐山)

施設見学事前打合せ 10/12

全国大会参加 29名

一泊旅行(浜坂温泉保養所) 11/11

施設見学(京都府南丹市、太陽の園) 11/26

今年度は、広大な地域のわりに施設数も少なく、加えて家族及び利用者の高齢化が進むなかで、活動の活性化を如何にして進めて行くかが大きな課題となっています。

先ず、全国大会参加を役員会開催ごとに各施設の会長さんの頑張りで29名、皆様と職員含めて30名を越す参加をえました。

11月11日恒例の一泊研修11名、施設見学も26名の方々に参加を頂きました。これもまた、



各役員様方々の頑張りが報われた結果だと思いません。そして全国大会の次回、仙台市の大会にも参加を希望したい方々もお見受けしました。

広報活動を通して、私達の現状と課題を知ってもらうべく、FM丹波の電波によるインタビューを計画して、三浦と佐山が参加をして、広く市民に理解を求めました。

親の想い**子供と社会性**

但馬・丹波かぞくねっと 恩鳥福祉会 保護者会長 吉見 富雄

未だ出来ないの？三年産まず女は離婚！古くは田舎で通用した言葉でした。

十七年目に出来た待望の娘！2,300g、未熟児で生まれたが、さほど心配もしていなかった。二十歳になったら、腕を組んで飲みに行くんだ。そんなことを言いながら喜んだものでした。

近所のおじさんが、「この子、ちょっと言葉が遅いのと違うか？」言われて初めてわが子の言動の遅れに気づいた。運動神経が鈍い！確かに言葉があいまいだ！保育園に行く年齢になり、夫婦揃って預かってもらえるかお願いに行き、快諾を得た。保育園に通う中で「言葉の教室」の存在を知り、週2日、午後、電車で妻と通うことになった。吹く力が弱いということで、風呂に入れば水を含んで吹きかける、笑いながら飛ばしあう、遊ぶ中でよだれと水を胸一面に流しながら毎日毎日続けた。

言葉の教室は通常小学六年までのところを中学三年まで校長と講師先生のご厚意で教えていただき、なんとか意味が分かる言葉になったのも両先生の熱意だと感謝しています。

中学校を卒業した後の進路を考えたとき、親亡き後…支援学校へ進むべきか、食べるものを作るべきかを悩んだ…結果！調理を選んだ。クッキングスクールへ頼みにいったところ、快諾をいただいた。一般の人は旬のコースを週1~2回/2か月で取得されるところを、全科・毎日・八年繰り返し通学した。その間、友達も大勢できたし、いくぶんか社会性もついてきた。

毎日のことで母親がついて行くことは出来ない。最初2回ほどついて行き、時刻表の見方を教えたり、分からないときはJRの制服を着た人に尋ねるよう教えました。3回目以降は本人に気づかれないよう隠れて見に行った。毎日同じ角を曲がって同じ横断歩道を渡って通っていたが、何回か通うと一本先の道路を通ってみたりするようになり、電車で一緒になる病院に通うおばあさんと顔見知りになり話をするようになった。

また自宅で炊事は自分の領域と考えているようだ。でも量が分からない。何日もカレーを食べさせられるのは苦痛です。

小学校に図書を持っていったとき、前校長先生が、「〇〇さん、いじめはあったか？」という話になった。「あったヨ」「あったナァ」…「ガァーガァー言って追いかけるし、雨蛙を首筋から入れられるし、色々あったナァ…いじめは嫌！…いまだに蛙はトラウマ 嫌！」

施設に通所するにも電車を利用した。病院通いのおばあちゃんとも顔見知りが増えた。親の知らないおばあちゃんとも話をするようになっていく。某おばあちゃんが詐欺にあったときも「聞いてくれたのはあんだだけ…。」一般的な社会性についてきたように思える。

今は本人も病院通いが多くなり電車通所ができない…社会性を身につける方法を考えなければならぬ…親なき後、考えると…この子が交遊できない分、私たちが出来ることで地域に奉仕を…と考え、子供をつれて参加している。今は親の傘の下にあっての交遊があると思う。加齢し世代が替わったとき…どのように生きていくのか…やはり心配です。

「家族会活動における高齢化とタスキリレーについて」

西中播磨かぞくねっと 若狭野荘家族会長 大野 修二

私の子供が利用している施設は、定員50名の自然環境の優れた入所施設です。施設を運営しているのは、『みどり福祉会』で魚橋病院を母体とする様々な障害者支援施設を併設し、若狭野荘は開設されて28年目になり、私の子供は、入所して20年になります。



障害支援区分は6です。現在安心して暮らせる施設だと思っています。特に、病院と併設されているので、緊急時の入院体制を含め24時間の医療的ケアを考える時、特に安心していきます。

若狭野荘家族会の活動は、月一回の家族会開催と、年一回の親睦会・もちつき大会・まつり・生活発表会・年三回の清掃活動・施設職員さんとの懇談会、各種研修会への参加などです。毎月の家族会への参加率は、年々の高齢化に伴い、現状は約30%程度です。参加率の良し悪しは、一施設だけでは判断に苦慮します。年一回の親睦会では、施設以外の場所で、家族会と代表施設職員・利用者との三者の食事会とカラオケ等の楽しい半日を過ごす行事も、定例化しています。

私たち家族会会員の平均年齢が、70歳を超え、主に活動している方々が80歳になろうとしています。子供を支える側の親が、支えが必要になる今日をいかに考え対応していくか身近な問題であります。この現状を考える時、次世代にいかにかタスキリレーをするかが、課題として残るのではないのでしょうか。駅伝大会をテレビで見ていると、タスキリレーが出来ず、又は次走者がいない場面を見る事がありますが、私たちの家族会は、障害を持つ子供たちを見守る為に、確実にタスキリレーをしなければなりません。二年前に、若狭野荘は当番施設として、西中播磨かぞくねっとの研修会を計画・実施した事は、家族会会員の意識を高める上で大切な行事だと思いました。家族会の意識高揚と発展の指針になればと思いますので、皆様のご助言をお願いします。

〈編集後記〉平成最後の機関紙です。桜の開花が楽しみな季節になりました。皆様の心にもあったかい春がきますように。2019年度もどうぞ宜しくお願い致します。(A.N)